

關於「*omou*」和「*kangaeru*」的 *wo* 格名詞之考察

— 以「學習者為中心」作為記述目標 —

龔柏榮

名古屋大學國際言語文化研究科博士生

摘要

現今的日語教育對於類義語「*omou*」和「*kangaeru*」的解釋通常停留於與「*to*」共現的引用用法上，然而對於「*wo*」格名詞則無多加闡述。相關的參考文獻雖針對「*omou*」和「*kangaeru*」的「*wo*」格名詞有所考察，不過除了在記述方面還有可檢討的空間之外，對於具體和怎樣的「*wo*」格名詞較易共現也沒有深入探討。本稿先從『NINJAL-LWP for BCCWJ』擷取「*omou*」和「*kangaeru*」的「*wo*」格名詞，並使用『分類語彙表(增補改訂版)』對其做語意上的分類。而「*omou*」和「*kangaeru*」共同共現的「*wo*」格名詞由於鮮少於參考文獻中被討論，因此以「*wo*」格名詞的語意特徵為基準，對兩動詞進行分析。最後站在學習者的角度，將分析結果反應至「*omou*」和「*kangaeru*」的相關記述上。

關鍵字： *omou*、*kangaeru*、*wo* 格名詞、以「學習者為中心」
記述、語料庫

受理日期： 2017.03.10

通過日期： 2017.05.05

Nouns that take the *o*-particle before *omou* and *kangaeru*: Toward a description for Japanese language learners

Kung Po-Rong

Ph.D Candidate, Nagoya University, Japan

Abstract

In current Japanese language education, the synonymous verbs *omou* and *kangaeru* ("to think") are taught as taking the quotative *to*-particle. However, the concurrence of nouns taking the direct object *o*-particle for both verbs has not been thoroughly investigated. Previous literature examines nouns that take the *o*-particle, however, the vague descriptions do not expressly list what kind of nouns are taken by the two verbs. Thus, this paper selects nouns taking the *o*-particle before *omou* and *kangaeru* in the "NINJAL-LWP for BCCWJ" corpus, classifies them by meaning using the "Thesaurus of Japanese (revised version)" and then characterizes the noun types. Next, the meaning of the nouns that can be marked with the *o*-particle concurrently for *omou* and *kangaeru* is examined; a step rarely referenced in previous studies. Finally, possible description methods for the cases in which the two verbs take the *o*-particle are discussed from the perspective of "description for second language learners," based on the results of the analysis.

Keywords: *omou*, *kangaeru*, *o*-particle marked nouns, description for language learners, corpus

「思う」と「考える」のヲ格名詞に関する一考察 －「学習者のための記述」を目指して－

龔柏榮

名古屋大学国際言語文化研究科博士後期課程

要旨

現行の日本語教育において類義関係にある「思う」と「考える」の引用節を伴う「ト」との共起は取り上げられている。一方、両動詞が「ヲ」格をとる名詞と共起する用法は積極的に扱われているとは言えない。また、従来の先行研究では「思う」と「考える」のヲ格名詞について検討されているが、記述的には曖昧であり、具体的にどのようなヲ格名詞と共起しやすいのかについても明らかにされていない。そこで、本稿はまず『NINJAL-LWP for BCCWJ』から抽出した両動詞のヲ格名詞を『分類語彙表(増補改訂版)』で意味別に分類した上で、ヲ格名詞に特徴づけを行った。続いて、先行研究であまり言及されていない「思う」と「考える」が共通して共起できるヲ格名詞の意味特徴から両動詞について考察した。最後に、「学習者のための記述」の観点から、分析の結果をもとに「ヲ」格をとる「思う」と「考える」の記述方法について述べた。

キーワード: 思う、考える、ヲ格名詞、学習者のための記述、
コーパス

「思う」と「考える」のヲ格名詞に関する一考察 —「学習者のための記述」を目指して—

龔柏榮

名古屋大学国際言語文化研究科博士後期課程

1. はじめに

コーパスの用例から考察すると、「思う」と「考える」があらゆるヲ格名詞と共起できるわけではない。このことから、ヲ格名詞との共起制限があることが観察される。以下の例(1)と例(2)における「思う」と「考える」は互いに置き替えることができない。

(1) 私は自分の行く道にあなたを(思います/*考えます¹)。

(Yahoo!ブログ, 2008)

(2) 栄養のバランスを(考える/*思う)。

(定司哲夫(1997)『変革の給食ビジネス』, P673)

しかし、次の例(3)では、「思う」と「考える」が同じヲ格名詞「気持ち」を伴うと、文全体の意味がほとんど変わることなく、両語を互いに置き換えることが可能である。

(3) 家族の気持ちを(思う/考える)と胸が詰まります。²

例(3)における「気持ちを思う」と「気持ちを考える」は両方とも「相手に対してある感情を喚起する」といった点で共通しており、二文の意味的違いは明確に感じられない。しかし、形式が異なる以上、同じ名詞と共起しても、意味が異なるはずである。

¹ 本稿において提起した用例について、/の左側はコーパスから抽出した原文で、/の右側は筆者による作例である。以下同様。

² 出典が示されていない例文は筆者による作例である。以下同様。

以上のことを日本語教育の観点で考える場合、例(3)のように同じ名詞と共起することを前提として、いずれかの動詞を選ぶとしても、ほとんど意味が変わらないため、それらの使い分けを理解するのに学習者にとって難しいと思われる。ただし、現行の日本語教育においては「ト」を伴う引用節を導入する一方、「～を思う」と「～を考える」は積極的に取り入れられている文法項目とは言えない。そこで、学習者がヲ格名詞をとる両動詞の用法について理解が不十分なために、不自然な文を産出してしまいう可能性があるように思われる。とりわけ両動詞を同じヲ格名詞と伴う際に、学習者に混乱を生じさせないよう配慮する必要があると考えられる。そのため、本稿の目的は類義関係にある「思う」と「考える」の意味について、共起するヲ格名詞がいかなる性質や特徴を有するかをコーパスによって明らかにすることである。それに、両動詞とも共起するヲ格名詞に重点を置きながら、学習者のための記述を出発点として分析し、考察する。

以下、本稿の構成について述べる。2章では、辞典と先行研究に記載されているヲ格名詞をとる「思う」と「考える」の意味特徴を検討した上で、その問題点を指摘する。3章においては、考察対象と分析方法を紹介する。4章では、『NINJAL-LWP for BCCWJ』から抽出したデータに基づいて両動詞のヲ格名詞について特徴を考察する。5章においては、前節で考察したものをもとに、学習者のための記述を試みる。6章では、今後の課題を述べる。

2. 先行研究

2.1 「ヲ格」を伴う「思う」と「考える」:類義語辞典

本節では、類義語辞典における「思う」と「考える」について、「ヲ格」を伴う場合の記述のみをまとめた上で、その問題点を探る。

『日本語基本動詞用法辞典』(1989)でのヲ格と共起する「思う」と

「考える」の用法は、以下のように意味分類がされている。

表1 『日本語基本動詞用法辞典』(1989)における記述

	思う	考える
①	ある人物や事柄に心を引かれたり、気にかかったりする 【文型】[人]{が/は}[人・物・事]を思う 例：故郷の母を思うと涙が出てくる。	物事について筋道を立てて思ったり、判断したり、予測したりする 【文型】[人]{が/は}[事]を考える 例：弘は一日中その問題を考えた。
②		あることについて注意を払う 【文型】[人・組織]{が/は}[心・感情・事]を考える 例：他人の気持ちを考える。
③		いろいろ工夫してもっといいものを生み出す 【文型】[人]{が/は}[物・事]を考える 例：良い治療法を考える。

以上の記述から見られる両動詞の相違点として、「思う」は「物事に心が惹かれる」、「考える」は「物事を思慮に入れる」という違いがあることが伺える。しかし、以下の例(4)と例(5)を見ると、この使い分けの違いがあるようには感じられない。

(4) 自分の死を思う時、この一瞬に意識が集中します。

死を意識した人にとって、毎日毎日が新しい人生となります。

(栗原修司(2002)『生と死への気づき』P.490)

(5) 死を考えないで、生きることばかり考えてたら、

どうみたって医療費は天井知らずになるだろう。

(ビートたけし(1991)『やっぱり私は嫌われる』.P304)

例(4)の「自分の死を思う」の「思う」については、死という言葉の背後にある意味に対して、自分に残された時間が限られていることを

分かっていることである。それによって、意識を集中することができ、新たな人生が始まるようになると言える。ここでの「思う」の意味が『日本語基本動詞用法辞典』（前掲）に提示される「考える」の意味「思慮に入れる」に近いと考えられる。例(5)の「死を考えないで」においては、「死ぬこと」から目を背けて「生きること」に関心を寄せるあまり、生きるための医療費はどこまで高くなるか分からない、というように解釈される。

また、【文型】に提示された[物]や[事]に関しては、たとえ同じ「事柄」に分類される「思う」と「考える」のヲ格名詞であっても、重なる名詞もあれば、重ならない名詞もある。そのため、両動詞とヲ格名詞との共起制限を通してそれぞれ名詞の特徴に着目して考察した上で、より理解しやすい記述にする工夫が必要であると考えられる。

次に、『類語例解辞典』（2003）では、両語の意味と使い分けが以下のように記述されている。

表2 『類語例解辞典』（2003）における記述

	思う	考える
共通する意味	物事を理解したり、感受したりするために心を働かす	
使い分け	想像、決意、心配、希望、恋情など、主観的、感情的に心を働かす	筋道を立て頭を働かせて客観的に判断する

まず、共通する意味として「心を働かす」が示されているが、「思う」の使い分けには類似する説明が繰り返されているのに対して、「考える」の部分には「頭を働かす」と異なった説明がされている。このことから、共通する意味と使い分けの意味記述は似ている部分が見られ、「思う」と「考える」それぞれの意味特徴が明らかにされていない。また、同じヲ格名詞と共起される場合、両語が互いに置き換えられるかどうかといった、違いを説明できるものではない。

2.2 「ヲ格」を伴う「思う」と「考える」に関する研究

2.2.1 高橋圭介(2002)

高橋(2002)は「思う」と「考える」のヲ格名詞を伴う文型に限定して類義語分析を行った。基本的意味に含まれている弁別的特徴として、「思う」は〈反応〉であるのに対して、「考える」は〈目的意識〉であることを主張している。また、2語の弁別的意思は表裏一体の関係にあると指摘した上で、〈反応〉が希薄化することにより、必然的に〈目的意識〉に近づくことに至っており、その逆も同じであるとする。さらに、「思う」と「考える」による多義的別義を認定した上で、置き換えの可能性についても検討した。高橋(前掲)による分析の結果は表3と表4のようにまとめられる。

表3 高橋(2002)による「思う」の多義構造³

	補語	構文/用例	別義
基本的意味	〈ある対象(の属性や対象に関する事柄)〉	〈～を思う〉 ・右手と、両膝をすりむいた他は何ともない。あのラッシュアワーの人ごみを思うと、奇跡的といってもよかった。	1
	〈人・組織〉	〈～を思う〉 ・このごろは国を思う人が少なくなった。	2a
		〈～のこと(ため)を思って…する〉 ・「僕のこと(ため)を思って遠慮しているんでしょ」	2b

表4 高橋(2002)による「考える」の多義構造

	補語	構文/用例	別義
	〈問題〉	〈～を考える〉 ・数学の問題を考える。	1
	〈アイデア〉	〈～を考える〉 ・対策を考える。	2
	〈主体にとって重要なもの〉	〈～を考える〉 ・他人の気持ちを考える。	3
	〈ある対象の属性や対象に関する事柄〉	〈～を考えると… [無意志動詞]〉 ・しかし、おふくろのい	4

³ 高橋(2002)で引用されている例文の一部を表3と表4でまとめるが、用例の出典については省略する。

基本的意味		ない後の生活を考えると、ちよつとうんざりした。	
	〈未知の事柄〉	〈～を考えて…する〉 ・こちらの英語力を考えて、別の表現で言い換えてくれる、などということはずまない。	5
	〈既知の事柄〉	〈～を考えると…だ〉 ・彼の日頃の成績を(から)考えますと、A 大学に合格するのはなかなか困難でしょう。	6

本稿で考察対象とするヲ格名詞を表 3 と表 4 の記述に当てはめると、「思う」の別義 1 および「考える」の別義 3 と別義 4 に置き換えられる可能性がある。しかし、表 3 と表 4 を見ると、「補語」での各意味記述は抽象的な言葉で定義されることが分かった。そこで、各々の「補語」の説明に対してもう少し用例を提示することで、その抽象的定義への理解を深めることができると考えられる。さらに、「思う」と「考える」が実際にいかなる名詞と共起するかに関しては、明らかにされていない。

続いて、両動詞とも共起するヲ格名詞のひとつである「気持ち」が含まれる例文で高橋(2002)による記述を再検討する。

(6) 「だから、そつとしといて。私の気持ちを大切に思うなら、今度だけ、自分を殺して」

(高樹のぶ子(1996)『銀河の雫』. P913)

高橋(2002)によると、「思う」の別義 1 は「考える」と置き換えられるのに対して、別義 2 は基本的には置き換えることが不可能であると指摘する。ただし、高橋(2002)で検討された「思う」の別義 1 に近い意味として、「思い出す」、「回想する」、または「想像する」を例(6)

における「思う」を入れ替えてみると、文全体の意味について多少違和感を覚える。また、「思う」の別義 2 を「考える」に置き換えられるとしたら、「～のこと(ため)を思って…する」といった構文に限定されると述べている。さらに、その補語の特徴としては、人が所属する「組織」に限られるようである。以上のことから例(6)を再検討すると、「思う」の別義 1 と別義 2 のいずれかには、明確にあてはめられず、記述的曖昧さが生じる。

2.2.2 高橋美保(2010)

高橋(2010)は「思う」と「考える」の文型の解明に重点を置きながら、ヲ格をとる「思う」と「考える」の名詞句のみに絞って両動詞の使い分けや特徴を考察した。ヲ格名詞句を伴う文型を考察対象とする分析を行った結果の一つとして、両動詞と共起するヲ格名詞の特徴について、「思う」は人を表す名詞と多く共起するとしている。一方、「考える」は抽象名詞との共起が頻繁に見られると指摘している。以下、名詞をヲ格にとる「思う」と「考える」のみの記述を示す。

【思う】⁴

『～を思う』

- (7) その弟から絶縁状を送られた時の剛志の心情を思う と、
残酷すぎる気がした。

【考える】

『～を考える』

- (8) 「自分のおかれた立場をよく考えてみたほうがいい」

⁴ 高橋(2010)で取り上げられている用例の一部を引用するが、出典については省略する。

実際にコーパスを用いて検証すると、「思う」のヲ格名詞は人に関わることが多いのは事実であるが、「考える」はヲ格名詞の意味特徴が抽象的であることが多いことが分かった。しかし、両動詞があらゆる人に関わる名詞や抽象名詞と共起するとは限らないため、具体的にどのようなヲ格名詞と共起しやすいのかについては検討する必要があると考えられる。本稿では以上のことを問題点として、ヲ格名詞に対する意味を特徴づける際により信頼性を持たせるため、『分類語彙表増補改訂版』を用いて分類することにした。

2.3 「学習者のための文法」に関する研究

日本語を母語としない学習者の視点から文法の記述を行うことを目指すのは「日本語教育文法」の見方である。続いて、本稿の内容に関連性が高い2つの先行研究についてまとめる。

2.3.1 白川博之(2002a・2002b)

白川(2002a)において日本語教育にとって重要なのは学習者が間違った言語使用の原因を把握することである。そこから、正しい文につながるような記述が求められる。また、白川(2002b)では日本語文法の記述的研究を「言語学的研究」と「語学的研究」に分けられている。それらの定義については、前者は「理論化やモデル化のための研究」、後者は「日本語を母語としない人たちに説明するための研究」と位置付けられている。さらに、語学的研究においては学習者の視点で文法を記述するために、日本語教育への貢献のみでなく、日本語学の再生にも期待できるとされている。

2.3.2 庵功雄(2015)

庵(2015)は「産出のための文法」の観点に立った類義表現の記述方法について検討した。また、言語要素(文法と語彙)においては、意味が分かればいいものを「理解レベル」、意味が分かった上で使える

必要があるものを「産出レベル」としている。従来の文法記述における規則のカバー率を上げるため、「規則を増やす」と「規則の抽象度を上げる」といった問題が指摘されている。また、学習者がこのような抽象的規則に沿って正しく産出できるとは限らないと述べている。そのため、「(カバー率)100%を目指さない文法」であることが重要とされ、無標と有標、産出レベル⁵、ということに基づいて考えれば、類義表現の記述がかなり簡潔にできるようになるという。

3. 利用コーパスとデータの考察方法

3.1 考察対象

本稿では国立国語研究所と Lago 言語研究所が開発した『NINJAL-LWP for BCCWJ(以下、NLB)』の 1.30 版から用例を収集する。続いて、考察対象を詳細に述べたい。「思う」や「考える」と「ヲ格」との間に副詞「よく」、「じっくり」などのような要素が入って構成される文がより自然な日本語であると思われるが、最も単純な構文形式とされる「を思う/を考える」で十分な考察が可能であると考えられるため、本稿では「ヲ格」の直前に現れる名詞に絞って考察することにした。また、本稿は「思う」や「考える」の直前に出現する一般名詞を中心に両動詞との関係を究明するため、形式名詞で成り立つ名詞節・疑問節などを分析対象に含まない。そのほか、国名、地名、人名などのような固有名詞も考察対象から外す。

3.2 分析方法

分析手順はまずヲ格名詞ごとに「思う」と「考える」との共起頻度を数えた上で、次に、それらの共起度を統計的手法「MI スコア⁶」でそ

⁵ 「無標と有標」と「産出レベル」の詳細についてはそれぞれ庵(2015)を参照されたい。

⁶ 「MI スコア」は統計指標の一つで、特徴的なコロケーションほど数値が高く、低頻度のコロケーションの数値が過剰に高くなる傾向があります。

それぞれのコロケーションを検討した。

本稿では『NLB』マニュアルにおいて指摘されている内容を参考とし、「思う」と「考える」とヲ格名詞との全体的な共起関係の傾向を詳細に分析する。その上で、頻度 5 以上のものを絞り込むことにする。また、両動詞が共通して共起する名詞の意味特徴を分析するにあたって、頻度 10 以上のものを考察対象とする。それぞれの共起するヲ格名詞を『分類語彙表増補改訂版』に基づいて分類し、両動詞のそれぞれのヲ格名詞による意味的特徴をより客観的な観点で解明する。

4. 考察結果

4.1 「思う」と「考える」の出現頻度

表 5 は『NLB』から抽出した、「ヲ格」をとる「思う」と「考える」の頻度数を示したものである。

表 5 「ヲ格」を伴う「思う」と「考える」の出現頻度

	全体頻度	「ヲ格」を伴う
思う	199915	1173
考える	84500	2677

表 5 より全体頻度から「思う」と「考える」を比べると、「思う」は 199915 であるのに対して、「考える」は 84500 であることから、「思う」の全体頻度が多いことが分かった。その頻度数の差はおよそ 2.36 倍であった。また、「ヲ格」を伴う「思う」と「考える」の頻度数から見ると、「～を思う」の用例は 1173 例であり、「～を考える」の用例は 2677 例があることが観察された。このことから、全体頻度とは異なり、「～を考える」の頻度数は「～を思う」の頻度数を上回って、そ

るため、低頻度のものを排除する必要がある。

(『NLB』マニュアル:P5 からの抜粋)

の頻度数の差は 2.28 倍に近いことが分かった。以上より、両動詞の名詞を「ヲ格」による使い分けの使用実態に関して、「考える」のほうがヲ格名詞と共に使われやすいのではないかと推測される。

4.2 共起名詞の頻度と「MI スコア」上位 50 語による調査

この節では『NLB』から抽出したヲ格名詞に基づいて頻度調査を行うことによって、「～を思う」と「～を考える」が共起するヲ格名詞の全体像を示す。

次に、MI スコアで両動詞の特徴的なヲ格名詞を検証した上で、LD 差⁷を示す。上位 50 語までの語は以下のようになっている。

表 6 「思う」と「考える」の特徴的なヲ格名詞
(頻度:5 以上+LD 差:上位 50 語)

	思う			考える		
	ヲ格名詞	頻度	LD 差	ヲ格名詞	頻度	LD 差
1	古里	17	5.79	購入	153	-7.67
2	初夏	8	5.78	物事	130	-7.66
3	彫刻	6	5.16	方法	294	-7.56
4	日々	7	4.86	バランス	123	-7.38
5	あなた	36	4.57	あり方	88	-6.97
6	恋人	5	4.52	問題	314	-6.88
7	男性	10	4.29	策	75	-6.73
8	春	7	4.28	対策	107	-6.57
9	太陽	5	4.26	理由	100	-6.43
10	神	10	4.08	立場	75	-6.43
11	息子	6	3.98	しかた	66	-6.25
12	妻	7	3.98	転職	43	-6.14
13	夫	7	3.93	原因	54	-5.8
14	君	14	3.82	手段	41	-5.74
15	父	8	3.82	献立	32	-5.73
16	娘	7	3.69	方策	30	-5.59
17	親	6	3.68	結婚	108	-5.58
18	友達	6	3.57	づくり	38	-5.5
19	彼女	14	3.47	場合	141	-5.37
20	母親	5	3.43	ダイエット	26	-5.35
21	身	7	3.41	展開	28	-5.28
22	夏	5	3.41	効果	44	-5.27
23	子	22	3.39	組み合わせ	24	-5.2
24	様	5	3.29	メニュー	27	-5.19
25	男	12	3.19	手立て	22	-5.19
26	彼	21	2.94	構成	29	-5.17
27	花	5	2.81	買い替え	20	-5.06
28	おれ	6	2.62	意味	132	-4.96

⁷ LD 差を簡単に言うと、LD 差が大きいほど、「～を思う」の特徴的なコロケーションになる一方、LD 差が小さいほど、「～を考える」の特徴的なコロケーションと言える。

29	母	7	2.58	ケース	25	-4.95
30	子供	19	2.57	作戦	21	-4.94
31	女	6	2.55	年齢	27	-4.93
32	様子	10	2.34	仕組み	21	-4.89
33	ため	58	2.3	安全	50	-4.85
34	相手	22	2.23	アイデア	19	-4.85
35	私	31	2.14	意義	19	-4.84
36	人	73	1.94	対応	59	-4.83
37	国	10	1.71	背景	21	-4.79
38	僕	5	1.7	就職	19	-4.79
39	家族	11	1.62	進路	17	-4.79
40	自分	49	1.55	受験	18	-4.78
41	女性	8	1.51	言い訳	17	-4.78
42	苦勞	5	1.13	テーマ	20	-4.73
43	命	8	1.12	面	29	-4.71
44	たち	15	0.92	内容	38	-4.68
45	心	8	0.85	例	29	-4.68
46	態度	3	0.55	名前	27	-4.68
47	心情	4	0.54	戦略	19	-4.68
48	有り様	3	0.32	コスト	18	-4.64
49	存在	9	0.28	留学	15	-4.6
50	心境	2	0.21	文章	18	-4.59

次に、「思う」と「考える」のそれぞれの特徴的なヲ格名詞を視覚的に理解しやすいように、『分類語彙表』で意味別に分類した上で、ヲ格名詞に特徴づけを行う。

表 7 「思う」や「考える」と共起するヲ格名詞の意味分類⁸

意味分類		思う	考える
抽象的 関係	事柄	ため	物事、ケース、例
	類		理由、対応、原因、効果、 手立て
	存在 様相	存在 様子、有り様	構成、 組み合わせ 、仕組み バランス、安全、内容、あり方、 づくり、 組み合わせ
	作用		転職、展開、ダイエット、 組み 合わせ 、進路
	時間	春、初夏、日々、夏、 心境	場合、立場
	空間 量	たち	面 組み合わせ 、年齢
	人間活動の 主体	人間	あなた、君、人、私、 自分、彼女、彼、 子 供 、 男性 、神、さま、 男、おれ、女、僕、 女性
家族		子、母、父、家族、 娘、親、 子供 、息子、 妻、夫、 母親	
仲間		相手、恋人、友達	
公私		古里、国	

⁸ 表 8 において枠線で囲んであるのは 1 つの語形が 2 つ以上の意味領域に属している共起名詞である。

人間活動ー 精神および 行為	心	心情、苦勞、心、 態 度 、 心境	方法、問題、意味、対策、しか た、手段、策、方策、 組み合わ せ 、 手立て 、 作戦 、アイデア、 意義、受験、テーマ、戦略、留 学
	言語		献立、メニュー、言い訳、名前、 文章
	芸術	彫刻	
	生活		結婚、就職、受験、留学
	行為	態度	
	交わり		作戦
自然物およ び 自然現象	経済		購入、コスト
	天地	太陽	背景
	生物	男性	
	植物	花	
	身体	身	

表 7 では、「思う」が「人間活動の主体」といった上位分類に属する名詞が多く共起しているのに対して、「考える」と共起する名詞はほとんど「抽象的關係」と「人間活動ー精神および行為」に分類されることが分かった。さらに、それぞれのヲ格名詞の意味特徴から考えれば、「～思う」の場合、「時間的狀態性」を有している名詞が多く観察される傾向があるのに対して、「～考える」におけるヲ格名詞の多くは「時間的持続性」を有している。また、MI スコア上位 50 語に入る「考える」のヲ格名詞を見ると、「人間活動の主体」に分類される名詞がないことが目立っている。

以上、コーパスから抽出したデータに基づいて高橋(2010)では検討されなかったヲ格をとる両動詞の共起名詞の使用実態について考察した。次の節において多くの先行研究であまり言及されていない「思う」と「考える」が共通して共起できる名詞から両動詞を分析する。

4.3 「思う」と「考える」が共に共起するヲ格名詞

両動詞の特徴的なヲ格名詞を分析するため、頻度 10 以上かつ両動詞とも共起するものに絞ることにする。以下の表 8 は「思う」と「考える」と共に共起するヲ格名詞の詳細をまとめたものである。

表 8 「思う」と「考える」が共通して共起できるヲ格名詞

(頻度:両語とも 10 以上+出現位置:両方の語)

	ヲ格名詞	意味分類	思う	考える	LD 差
			頻度	頻度	
1	ため	抽象的關係	58	13	2.3
2	人	人間活動の主体	73	20	1.94
3	自分	人間活動の主体	49	19	1.55
4	姿	抽象的關係	10	19	-0.23
5	言葉	人間活動－ 精神および行為	10	30	-1.14
6	気持ち	人間活動－ 精神および行為	19	98	-1.69
7	-性	抽象的關係	10	223	-4.22

まず、表 7 から観察されるヲ格名詞から見られる意味特徴を表 9 にまとめる。それに基づいて、表 8 にまとめた 7 つの共通するヲ格名詞を用い、それらは両動詞との意味的共起制約に関する記述を整理する。

表 9 「-を思う」や「-を考える」におけるヲ格名詞の意味特徴

	文型	ヲ格名詞の意味特徴
思う	[主体]が[ヲ格名詞]を思う	ヲ格名詞の成分は、主体が名詞の時間的狀態性に対して、一時的な感情表現を表す
考える	[主体]が[ヲ格名詞]を考える	ヲ格名詞の成分は、主体が名詞の時間的持続性に対して、具体的な行動をとる

4.3.1 「抽象的關係」:ため、姿、-性

【ため】

「ため」を LD 差から考察する場合、2.3 という正数値になっているので、「思う」の特徴的なヲ格名詞として見なすことができる。

(9) 自分の老後の負担は、自分でするのが基本です。普通

は老後のためを(考えて/思って)、自分が働いているうちに年金もちゃんと払うし、貯蓄もするものです。

(Yahoo!知恵袋、2005)

例(9)を考察すると、「老後のためを考えて」を「老後のためを思って」に置き換えても文全体の意味が通じるが、多少意味的な差異が生まれる。「思う」に比べて、「考える」には、「今後どのようにすればいいのか」といった主体の持続的な思考のプロセスが含意されている。そして、今後どのようにしていけばいいのかという対策として、「年金を払う」と「貯蓄をする」といったような具体的な行動を起こしたわけである。一方、「老後のためを思う」の場合、主体がとった実際の対策というより、「老後のため」の背後にある不安や心配になるというような一時的な感情を焦点にされるように思われる。

【姿】

LD 差が-0.23 になっているため、「姿を考える」を「考える」の特徴的なコロケーションとして見なすことができる。しかし、LD 差がそれほど大きくないので、「思う」と「考える」のいずれかの特徴的なコロケーションとも言い切れない。

(10) この城跡に、地方豪族が時代の潮流の変化に生き残りを懸ける姿を(思いながら/考えながら)南の丘陵の麓を覗う。

(茜嶺治(2004)『『歴史紀行』海の見える
プラットフォームから』.915)

例(10)において「姿」が「思う」と共起する場合、主体が地方豪族の立場となって、まるで自分がその時に生きていたかのように、ただ南の丘陵の麓を覗うことになっている。一方、「姿を考える」の場合、

地方豪族がそのとき、この城跡で時代の潮流の変化を抵抗するために、いかなる生き残るための具体的な手段や行動を取ったのか、といった「姿」の背後にある事情を深く探るニュアンスが感じられる。このことから、たとえ同じ「姿」と共起するとしても、主体がどのような視点で物事を捉えるかによって、全体的解釈も異なってくると考えられる。

- (11) 基本目標に取り組み、幸せをつくり出した結果、瀬谷区がどのような姿になっているのか？ 区役所は、瀬谷区の近未来の姿を次のように(考えています/*思っています)。●こどもたちが瀬谷の自然や人につつまれて健やかに育っています。(後略)

(『広報よこはま 瀬谷区版』.2008.神奈川県)

ただし、例(11)のように、「瀬谷区の近未来の姿」に対して実際の行動を起こしたという場合、「思う」に置き換えると多少違和感を覚える。なぜなら、「考える」では、主体がある物事に対して具体的な対策や行動をとることを思案するが、「思う」では、主体が物事を感情による表面的なものとしてしか捉えることができないため、例(11)では「瀬谷区の近未来の姿」に対してより深く考慮していないという意味を表してしまうためである。

【-性】

表 8 から「-性」は「思う」との共起頻度が少なく、「考える」との共起頻度が非常に高いことが分かった。庵(2015)が指摘している「産出のための文法」という考え方を参考に、産出レベルから考えれば、「-

性」の後ろには、「思う」よりも「考える」の方が共起しやすいということ
をまず学習者に意識させることが必要である。

(12) 米国市場との同質性、連動性を(考える/*思う)。

(吉見俊彦(2001)『利益を出す株の教科書』.P338)

(12-1) 米国市場との同質性、連動性をどう(考える/思う)。

(例(12)をもとに筆者が作成)

例えば、例(12)のように「-性」が「思う」の言い切りの形で共起した
場合、違和感を覚える。ただし、例(12-1)のように「どう」を付加す
ることによって、物事に対する「捉え方の深み」が増すため、「-性を
思う」の言い切りという形式でも自然に捉えられるようになる。こう
した使い分けについても、「-性+考える」を1つのペアとして学習者
に提示した上で、「-性+どう+思う」という用法があることを補足的に
説明すべきであると思われる。

実際にコーパスから抽出した用例を見ると、「-性を思う」の用例に
おいて言い切りの形で出現したのは10例のうち、ただ1例だけで
あった。

(13) 01年の「9・11」同時テロの印象が残る中、まずテロの
可能性を思った。

(山家公雄(2004)『北米大停電』.P540)

そのほかの9例はすべてほかの活用と共起する。例えば、
「-性を思うだけで」、「-性を思わせる」、「-性を思うことによって」な

どがある。

(14) この世は「獄舎」であり、自分と言う存在の神秘性を思うことによって、多くの人に希望が生まれ、そのことに全人類が気付くことになれば、現在の多くの危機は乗り越えられるはずであります。

(Yahoo!ブログ、2008)

4.3.2 「人間活動の主体」:人、自分

表 8 から分かるように、「思う」は「人間活動の主体」に属するヲ格名詞「人」と「自分」と共起しやすい。

【人】

(15) 好きな人を(想って⁹/*考えて)聴くのにお勧めな曲ってなんですか？

(Yahoo!知恵袋. 2005)

例(15)では「思う」と共起する場合、ただ好きな人を頭に浮かべながら、一時的な感情に流されて聴くのにいい曲が何かというアドバイスを求めている。一方、「好きな人を考えて」についてはまた異なる捉え方があるとされている。つまり、主体がこの曲を聞いたら、相手との将来に何らかの変化などの期待を込めて、アドバイスを求めている。

【自分】

(16) 十年後の自分を(考える/*思う)ことはむずかしい、と私自身

⁹ 本稿では「思う」と「想う」を意味が同じだが表記が異なる語とみなし、同義語として扱う。

も感じています。特に考えなくても日々は平穩に過ぎていくでしょうし、むしろ考えないほうが、心は楽かもしれません。

(石川結貴(2001)『主婦再生』.367)

例(16)では、主体が「十年間の間に自分に具体的にどのような変化があるのか」ということを想像したが、それを現実の現象として捉えることができないため、それは難しいという評価につながったわけである。一方、「十年後の自分を思う」はこのような深みのある思考のプロセスがないため、ただ「十年後の自分」そのものを一時的に頭に浮かぶという違いが伺える。

4.3.3 「人間活動－精神および行為」：言葉、気持ち

【言葉】

LD 差が-1.14 になっているため、「言葉を考える」を「考える」の特徴的なコロケーションとして見なすことができる。続いて、同じヲ格名詞「言葉」と共起する場合、どのような違いが出てくるのかについては例(17)で考察する。

(17) いっそ病気のことを正直に言ってしまうおうかと思うときも
ありますが、すべてを理解することはむずかしいでしょう。
私も、予想されるぶしつけな言葉を(思う/考える)と、なかなか勇気が出ません。もっと年をとれば、平気で話せる日がくるかもしれません。

(ワット隆子編(1989)『私たちは生きる』.P916)

例(17)においての「言葉」が「思う」と共起する場合には、そもそも

「言葉」を深く捉えることがなく、単なる「予想されるぶしつけな言葉」そのものが主体の心に一時的に留めておくわけである。一方で、「言葉を考える」は、「なぜ相手がこの言葉を発するのか」、といった「言葉」の背後にある真意を主体が深く探るのが「考える」の意味特徴として捉えられる。

【気持ち】

表8では、「気持ち」は「考える」の特徴的なヲ格名詞として見なすことができる。では、「気持ちを思う」と「気持ちを考える」の違いはどこにあるのかについては例(18)で説明したい。

(18) 「いや、とても人の心を気にするおじいなんだよ。 人の気持ち (思う/考える)と何も決断できないんだ。年取って仲間はみんな、おまえのおじいのようなガージュー(頑固者)になっているというのに。

(又吉栄喜(2000)『陸蟹たちの行進』.P913)

「気持ちを思う」の場合、おじいさんの立場になってみると、おじいさんの気持ちを結び合わせようとせず、単に軽々しく捉えるという傾向があるように考えられる。一方、「気持ちを考える」の場合、主体がその気持ちの裏には何らかの意味があるのかを深く探っていくためのプロセスがある、といった違いが伺える。おじいさんの立場になった上で、「この時には、相手はきっとこのように感じるのだろう」というような推測が主体の頭にしきりに行われている。

5. まとめと日本語教育への示唆

学習者の視点に立った記述を行うには、表現に関する細々とした抽象的な意味よりも、それぞれの使い分けが具体的にいかなる使用場面で使われているのかを示す必要があるとされる。庵(2015)では、文法と語彙には理解ができればよいとする用法(理解レベル)と、産出することを目指す用法(産出レベル)に分けられ、それらの区別の必要性が指摘された。このことから、産出できるようになる用法に関してそれぞれ具体的な使用場面の提示を重点的に位置付け、その他の用法については理解にとどめる程度で十分であると考えている。そこで、5章では前章で検討した「思う」と「考える」が共通するヲ格名詞に焦点をあて、「学習者のための記述」という出発点から記述を試みる。

まず、「思う」と「考える」が共通するヲ格名詞から両動詞の意味の違いについて以下のようにまとめる。

表 10 共通ヲ格名詞からみる「思う」と「考える」の意味特徴

	思う	考える
【ため】	現在の心境	今後の進展
【姿】	物事の表面	物事の本質
【-性】	物事に対する「捉え方の深み」がそれほど感じられない	今後のことを予測する
【人】	純粹な気持ち	目的を求める
【自分】	浅い思考プロセス	想像する
【言葉】	心に浮かぶ	真意を深く探る
【気持ち】	相手の立場になる	相手の行動を推測する

本稿では、「学習者のための記述」という考え方に沿った記述方法について考えるが、表 10 のように学習者に「思う」と「考える」の基本的意味と用法の相違点を提示することも重要ではないかと考えている。両動詞の意味を認識させた上で、具体的な例文と特徴的なヲ格名詞を提示したなら、それらの用法の定着度もより上がりやすいと考えられる。

次に、表7でまとめたように、「思う」と「考える」のヲ格名詞が特定の語に偏っている傾向が見られる。このことから、「思う」は「人間活動の主体」、「考える」は「抽象的關係」と「人間活動－精神および行為」、という特徴を持つ名詞と共起しやすいことを説明する。

続いて、教育現場において学習者のレベルに応じた、適切な教育を考える上では、レベルに応じたヲ格名詞の提示を意識した方法を考えていく必要があると考えられる。そのため、4節で検討した上位50語のヲ格名詞を旧JLPT出題基準¹⁰でまとめるものを以下に示す。

表11 旧JLPT出題基準で分類した「思う」と「考える」のヲ格名詞

	思う	考える
旧4	あなた、春、父、友達、夏、男、花、母、子供、女、私、人、国、家族、自分、たち	問題、結婚、意味、名前、文章
旧3	男性、息子、妻、夫、君、娘、彼女、子、様、彼、ため、僕、女性、心、	理由、しかた、原因、場合、安全
旧2	古里、彫刻、恋人、太陽、神、親、母親、身、様子、相手、苦勞、命、態度、存在	物事、方法、バランス、対策、立場、手段、献立、展開、効果、組み合わせ、メニュー、構成、年齢、アイデア、意義、就職、受験、テーマ、面、内容、例、留学
旧1	おれ、心情、有り様	購入、策、方策、-づくり、ケース、作戦、仕組み、対応、背景、進路、言い訳
その他	初夏、日々、心境	あり方、転職、ダイエット、手立て、買い替え、戦略、コスト

単に共起名詞の特徴を示すにとどまらず、学習者の日本語能力を把握しながら、両動詞がどのようなヲ格名詞と共起しやすいかを同時に導入する。レベル別にまとめたヲ格名詞を挙げたことで、学習者は両動詞の使い分けとそれらのヲ格名詞をさらに理解しやすくなると考えられる。

最後に、学習者に「思う」と「考える」の意味と特徴的なヲ格名詞を再度、整理して理解させるために、両動詞が共通して共起するヲ格

¹⁰ 現行試験では出題基準が出版されていないため、旧出題基準をもとに語彙をレベル別に分類した。その理由としては、「新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版」を参照されたい。

名詞を示す。ここでは、まず学習者に「ためを思う」と「-性を考える」を特徴的なコロケーションとして認識させたほうがよいと考えられる。続いて、「姿、人、自分、気持ち、言葉」のような名詞と共起する場合、どのように使われるのかについて実際の例文を学習者に提示する。そのような導入と定着練習の重要度も高いと言える。本稿で提案したヲ格をとる「思う」と「考える」の指導法は教育現場において学習者の理解と運用に役立つと考えられる。

6. 今後の課題

本稿は「思う」と「考える」をコーパスから抽出したヲ格名詞をもとに、それらの意味特徴を検討した。また、両動詞の共起しやすいヲ格名詞と共通するヲ格名詞をも明らかにした。最後に、これまで議論してきたものに基づいて日本語教育への提言を取りまとめた。

しかし、本稿は学習者のための記述方法を中心に議論したが、それを実際に教育現場に生かす場合、具体的にどのような成果をもたらしているのかについては検討する余地があると考えている。そのため、今後、更に実践面での研究の充実を図っていくことが望まれる。

参考文献(50音順)

庵功雄(2015)「「産出のための文法」に関する一考察—「100%を目指さない文法」再考—」『文法・談話研究と日本語教育の接点』くろしお出版. 19-32.

白川博之(2002a)「外国人のための実用日本語文法」『月刊言語』31巻4号. 大修館書店. 54-59.

白川博之(2002b)「記述的研究と日本語研究—『語学的研究』の必要性と可能性—」『日本語文法』2巻2号. くろしお出版. 62-80.

- 高橋圭介(2002)「類義語「思う」と「考える」の意味分析－類義関係にある語の多義記述試論－」『日本語文法』2巻1号.190-210.
- 高橋美保(2010)「思考動詞「思う」「考える」の意味記述」.
한국일본어학회 학술발표회. 13-20.
- 李在鎬・黒田航・大谷直輝・井佐原均(2006)「名詞との共起関係に基づく構文の定義」『日本認知言語学会論文集』第6巻.160-170.

考察資料(50音順)

- 国際交流基金・日本国際教育協会著作編(2007)『日本語能力試験出題基準(改訂版第4刷)』.凡人社.
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会(2009)「新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版」
(https://www.jlpt.jp/e/reference/pdf/guidebook_s_j.pdf)(
2016年12月11日観覧)
- 国立国語研究所(2004)『分類語彙表増補改訂版』
- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
- 国立国語研究所『NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB)』

辞典(50音順)

- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹(1989)『日本語基本動詞用法辞典』.大修館書店.
- 小学館辞典編集部編(2003)『使い方の分かる類語例解辞典(新装版)』.
小学館.
- 山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之(2011)『新明解国語辞典 第七版』.三省堂.